

## 国際理解教育/開発教育 学習指導(活動)案

## 【実践者】

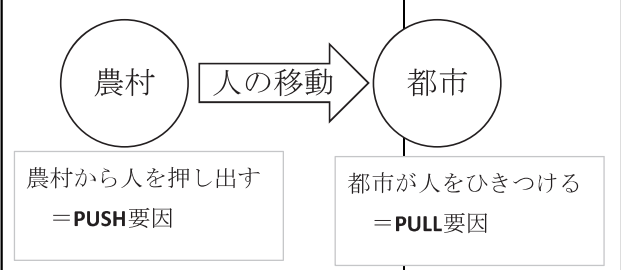
授業者氏名	堀 奏音	学校名	私立 青森明の星中学・高等学校
教科(科目)・領域	地歴公民・地理総合	対象学年(人数)	1年 5組(23名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2025年 10月 (3時間)		

## 【実践概要】

1. 単元名(活動名): 居住・都市問題とSDGs					
2. 実践する教科・領域	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)					
<p>発展途上国でみられる居住・都市問題を具体的な事例を通して現状や背景を理解し、SDGs11「住み続けられるまちづくり」の視点から、課題とその解決策を考察し、持続可能な都市づくりについて自ら考える力と態度を育てる。</p>					
5. 単元の評価規準	①知識・技能	発展途上国でみられる居住・都市問題について、具体的な事例を理解することができる。			
	②思考・判断・表現	都市が持続可能であるための課題と改善策を、SDGs 11の視点で考察することができる。			
	③主体的に学習に取り組む態度	持続可能な都市づくりについて、主体的に考えることができる。			
6. 単元設定の理由・単元の意義					
<p><b>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</b></p> <p>現代において、都市は経済活動や人口が集中することにより、交通渋滞や環境悪化、スラムの拡大など多くの課題を抱えている。特に発展途上国の都市では、急速な都市化によりインフラ不足や大気汚染などが深刻化しており、SDGsの達成に向けた国際的な課題となっている。この単元では、地理的な視点から都市問題をとらえ、持続可能な都市づくりについて考察することを目的とする。</p> <p><b>【児童／生徒観】</b></p> <p>本校の1年5組は、コミュニケーションを積極的に取ろうとする姿勢や、わからないことも一生懸命に理解しようとする雰囲気がある。英語科であることもあり、生徒たちがグローバルな視点で地理的な事象を考察することで、持続可能な社会への関心を深め、主体的に行動する意識を育てていくことができる。また、SDGsに関連付けて地理総合を学習することで、地理という科目がより身近なものと感じられることに加え、本校のグローバル教育という点からも、国際理解のきっかけになることが期待される。</p> <p><b>【教材観】</b></p> <p>SDGsという言葉の認知度はここ数年で格段に高くなっているが、正しく内容を理解できている人はそれほど多くないように感じる。普段から使用している地理総合の教科書を用いて行う授業の延長線上にSDGsの考えがあるということに気づかせ、SDGsが身近なものであることや、目標11「住み続けられるまちづくり」を、世界の様々な背景を抱えた各地で実現するために必要なことは何かを考えさせたい。</p> <p><b>【指導観】</b></p> <p>地理総合の都市問題の分野をベースに、生徒同士が「答えのない問い」について考え、高校生なりの問題意識をもち疑問を抱かせるとともに、世界の様々な国や地域に目を向け、グローバルな視点を持つきっかけとしたい。</p>					

7. 単元計画(全 3 時間)			
時間	ねらい	学習活動	資料など
1	都市への人口集中が世界的に進んでいることを主題図やグラフから読み取るとともに、都市に人が集まる背景について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ都市に人が集まるのか、その理由をグループで議論する。</li> <li>都市人口率について、主な国のデータを読みとり、その傾向を把握する。</li> <li>SDGs について触れ、目標 11「住み続けられるまちづくりを」について、住み続けられる都市とはどのような都市か、ワークシートに列挙する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真資料</li> <li>ワークシート</li> </ul>
2 本時	途上国の都市問題を理解し、それらが SDGs とどのように関連しているかを考え、解決に向けた取り組みについて知り、自分たちにもできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>都市に人口が集中するとどのような問題が起こりうるか、ワークシートに記入する。</li> <li>途上国の都市問題に関連する SDGs 目標は何か、議論する。</li> <li>解決に向けた取り組みにはどのような例があるかを知り、自分たちにもできることはないかを検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真資料</li> <li>ワークシート</li> </ul>
3	先進国の都市を例に挙げ、インナーシティ問題と、その解決に向けた都市計画を行ったロンドンの事例から学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口減少に転じた都市では、どのような問題が発生したのか、グラフを読みとる。</li> <li>ロンドンの都市計画の例を、日本の都市と比較検討する。</li> <li>自分が住むまちが持続可能であるために、必要なことは何か議論し、まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写真資料</li> <li>ロンドン中心部と郊外の人口推移を示したグラフ</li> <li>ワークシート</li> </ul>

8. 本時の展開(概略)			
本時のねらい:途上国の都市問題について考え、SDGs と関連付けて理解し、自分たちにもできることを考える。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料(教材)
導入 (5分)	<p>前時の振り返り</p> <p>T 前回の最後に、SDGs11 について確認しました。では、『住み続けられるまち』とは、どのようなまちだと考えましたか。 (前時に記入したワークシートを利用)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安全であるまち</li> <li>インフラが整っている</li> <li>仕事がある</li> <li>買い物や通勤がしやすい</li> </ul>	<p>前時の続き</p> <p>生徒に声をかけ、発表を促す</p>	ワークシート(前時から使用していたもの)
展開 (35分)	<p>都市の人口一極集中について (グラフを提示)</p> <p>T 途上国で、首位都市に人口が集中するのはなぜでしょう。農村と都市を比べてみます。</p> <p>T 雇用機会(働き口)は、都市と農村のどちらが多いでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市</li> </ul> <p>T 所得水準は、都市と農村のどちらが高いでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市</li> </ul> <p>T 病気になったときに、医療サービスを受けやすいのは都市と農村のどちらでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市</li> </ul> <p>T 高校や大学などへの進学を考えたときに、都市と農村ではどちらが教育機会が多いで</p>	<p>グラフから、どの程度の人口集中度合いかを認識させる</p> <p>2 択の問いなので、挙手させて確認する。</p>	グラフ:フィリピンの都市圏別人口順位

<p>ようか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市</li> </ul> <p>T 買い物や通学通勤など、普段の生活を考えると、都市と農村ではどちらが便利でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市</li> </ul> <p>T 趣味・娯楽・文化など、自分に合った生活がしやすいのは、都市と農村のどちらでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市</li> </ul> <p>T 皆さんが農村に住んでいたら、どう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村での暮らしは苦しいので、都市に移住したくなる。</li> <li>・都市に移住すれば、暮らしが良くなるような気がする。</li> </ul> <p>T このように考えてみると、農村には雇用機会が少なく、所得水準も低い農村から、人々が都市に移住する理由がわかりますね。農村から人々を押し出す要因をプッシュ(push)要因と言います。</p> <p>逆に、都市では一般的に、雇用機会が多く、所得水準も高く、さらに医療を受けられる機会も多く、より高い教育を受けられる機会が多く、しかも、生活が便利で暮らしやすいとされています。</p> <p>このように、都市が人々を引き付ける要因をプル(pull)要因と呼びます。</p> <p>このプッシュ要因とプル要因によって、都市への人口集中が起こっています。</p> <p>T 人口が一極集中すると、どのような問題が起こるのか考えてみましょう。 (写真4枚A~Dを順に提示)</p> <p>(写真A)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高層ビルとスラムが両方あるから経済力に大きな格差があると思う</li> <li>・治安が心配</li> </ul> <p>(写真B)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童労働で何とか生活している</li> <li>・ゴミの中から金目のものを探して暮らしている</li> </ul> <p>(写真C)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住む場所が足りていない</li> <li>・衛生面は大丈夫かな</li> </ul> <p>(写真D)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・渋滞がひどいので環境に良くない</li> <li>・渋滞のせいで、通勤通学がしにくい</li> </ul>	<p style="text-align: right;">↓板書例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  </div> <p>4枚の写真から、人口の一極集中をビジュアル的に認識させる</p>	<p>写真: マニラの高層ビルとスラム、廃棄物を集める少年、水質汚染が進む川沿いに立つ住宅、交通渋滞</p>
---	---	--

	<p>T 途上国で起こっている都市問題について、12枚のカードを配ります。どのように関連しあっているか、矢印でつないでみましょう。</p>	<p>カード…スラム化, 貧困, 飢餓, 学校に通えない, 仕事につけない, インフラの未整備, ゴミ問題, 安全でない水, 交通渋滞, 大気汚染, 不衛生な環境, 感染症の蔓延以上の12枚</p> <p>グループごとに、ウェビングさせる。</p>	<p>↓ 解答例</p>
	<p>T 都市問題に関連するSDGs目標はどれか、グループで話し合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住むところの問題があるからSDGs11</li> <li>・水質の問題があるのでSDGs6</li> <li>・収入が安定していないからSDGs1</li> <li>・多くの目標が関連している</li> </ul>	<p>SDGsの多くの目標が関連しあっていることに気付かせる</p>	<p>↓ 解答例</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>学生国際協力NGO FEST TOKYO について紹介する</p>	<p>生徒が各自のタブレットを用いて、FEST TOKYOのホームページにアクセスし、団体概要や活動内容などを調べる。</p>	<p>FEST TOKYO: スラム地域を対象とした「自立支援」を行っている国際協力NGO</p>

	<p>T 学生国際協力 NGO FEST TOKYO ほどのような活動をしている団体か、タブレットで検索して調べてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スラム地域の支援をしている</li> <li>・フィリピンで活動している</li> <li>・井戸の建設をした</li> <li>・水道をはじめとしたインフラ整備をしている</li> <li>・「過剰介入を避けつつ、最低限のリスク管理を行う」をテーマに活動している</li> </ul>		
	<p>T 学生国際協力 NGO FEST TOKYO はこのような(皆さんが調べた)活動していますが、皆さんも、今またはこれから、何ができることはあるでしょうか、考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途上国の人々の暮らしに関心をもつ。</li> <li>・国際協力をしている NGO について調べてみる。</li> <li>・日本における都市への人口集中についても考えてみたい。</li> <li>・将来、途上国へのスタディーツアーに参加したい。</li> </ul>	<p>ワークシートに記入 記入したことを発表させる</p>	

<p>9. 評価規準に基づく本時の評価(評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・途上国の都市問題の現状を理解する。(ワークシート)</li> <li>・都市問題とSDGs 目標との関連を考えることができる。(観察)</li> <li>・SDGs の各目標達成には、他の目標との関連が強いことを理解する。(ワークシート)</li> <li>・都市問題の解決に向けた取り組みについて、自分たちにできるは何かを考えることができる。(ワークシート, 観察)</li> </ul>
<p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p><b>【学習方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を用いて、気づいたことを挙げる。</li> <li>・ホワイトボードを用いて、SDGs に関する項目のウェビング。</li> <li>・ワークシートに、自分の考えを記入する。</li> <li>・各自のタブレットで、国際協力 NGO について検索し調べる。</li> </ul>
<p>11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み</p> <p>本校では、総合的な探究の時間の中で、SDGs をはじめとしたグローバル教育に取り組んでいる。今回の地理総合での授業にとどまらず、他教科の教員と連携しながら、授業を展開していきたい。また、高校1年生だけでなく、本校の中学生に対して授業を行う機会を設け、校内全体で国際理解教育の機運を盛り上げていきたい。</p>

## 【自己評価】

12. 苦勞した点 ※学習活動が展開する中での苦勞や、そこで見えてきた問題点を記入して下さい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・農村と都市を、雇用や教育などについて、農村と都市ではどちらの方が恵まれているかを考えるところで時間をかけず、逆に写真を見せて考えさせる部分に時間をかけすぎるなど、時間配分に苦勞した。</li> <li>・最後に NGO を紹介し、自分たちにできることは何かを考えさせようとしたが、高校1年生からすると「募金」「ボランティアに参加」「ゴミを出さない」などといった、想定よりもレベルの低い回答が多くなってしまった。問いかけ方が正しくなかった結果であると言える。</li> </ul>
13. 改善点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホワイトボードを用いて、途上国に見られる都市問題の関連を矢印で繋いでいく時間をとったが、グループごとに、なぜそのようなつながりになるのかを説明させるべきであった。各グループで答えが異なるため、お互いの考え方をシェアさせると、さらなる学びがあった。</li> <li>・ロイノート等を有効に活用し、各自で考えたことや気づいたことが、その場でタブレットを通してお互いに送り合うことで、他の班の考え方も知ることができ、より学習内容や思考を深めることができた。</li> </ul>
14. 成果が出た点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に、地理総合の教科書の内容を用いて、途上国の都市問題や SDGs について考えさせることによって、他国のこととはいえ身近な問題としてとらえることができた。</li> </ul>
15. 学びの軌跡(児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど) 以下、授業の最後に発問した「今またはこれから、何ができることはあるでしょうか、考えてみましょう。」に対する、生徒のコメント(一部)です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs についてもっと学ぶことで、他の SDGs に関連する多くの問題があることに気付いた。ボランティア活動を通してこれらの問題の予防・解決に最善を尽くすべきだと思う。</li> <li>・世界に目を向け、今の現状を知り、何ができるのかを考えることが大切だと思った。</li> <li>・少しずつ自分のムダを減らして、地域のために活動できることを、一人だけでなくみんなでやれるようにする。</li> </ul>
16. 授業者による自由記述 <ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしながら、自分自身がきちんと指導案を作成して、それに基づいて授業を展開するのは、教育実習以来である。改めて、指導案を作成する大切さや、生徒のことを考えながら授業展開を検討していく難しさを実感した。</li> <li>・大津先生に、大変ご丁寧にご指導いただき、授業実践をするまでは「絶対うまくいくとても良い授業」になるという、根拠のない自信があったが、実際に授業を行ってみると、反省すべき点が多々あり、自分の未熟さを実感した。</li> <li>・今後この授業が、私の「テッパンネタ」として、校内で活用できるようにし、本校のグローバル教育の一助となれるようにしたい。</li> </ul>

## 【参考資料】

単元を構想、実施する上での教師のための参考資料、学習者のための参考資料、ウェブサイト、データソースなど

- ・写真・グラフは全て本校で採用している教科書からの引用  
〔地理総合 世界に学び地域へつなぐ(二宮書店)p192～193〕
- ・学生国際協力 NGO FEST TOKYO <https://www.ngofesttokyo.com/>